

4月26日(月)AM10時
大阪地裁202号法廷
NTT リストラ大阪裁判
第9回口頭弁論

NTTは神野さんを大阪に戻せ

NTTの見せしめを許すな

神野さんが大阪から名古屋に勤務するようになり早一年半がすぎます。名古屋への通勤時間親の介護が必要なことを申し出ていましたが、NTTは半強制的に名古屋に配転をしました。その後、父親は帰らぬ人となり、母親は痴呆症が急激に進行し神野さんは実家の母親の家に泊まりこみ介護を続けながら往復5時間の通勤をしています。

電車に5回乗り換え、NTTは今年4月から名古屋三〇km、往復5時 古屋の労働者を大阪に通勤間をかけ名古屋・金山にさせました。わざわざ名古屋勤務しています。今は介 屋から大阪に転勤させなく護休職(無給)をとり、ても大阪から名古屋にきてお母さんの介護を続けて いる社員を戻せばよいのですが、神野さん自身 道理のない転勤をやめの身体にだんだん疲れが させましよう。みなさんの見えるようになっていま ぐ支援をよろしくお願います。

大阪での勤務を願う

痴呆を病む母の近くで介護を

痴呆症を病み「自分はじつになっていくのか」と不安と葛藤する母。「いきなり激昂して信じられないような行動をとる母」

介護のあり方は百人百様と言われ手探り状態の日々介護する側の精神的な負担は大きい。「無理はダメ、頑張っても半年が限界」と言われたことを実感する毎日です。

「老年期には寂しさ悲しさなどによる絶望感が強いほど、又自分の価値が認めてもらえないほど痴呆になるのが早く、混乱したり困惑した生活は痴呆状態を進行させる。子供に感謝され、家族すべてに尊敬される(安心と満足)の日々を送るお年寄りには健康寿命が長く万一痴呆に陥っても進行を遅らせることが出来る、改善するチャンスも充分生まれる」そうです。

戦後の厳しい時代を生き「老後はあなたに面倒見てもらおう」といつていた母、様々な望みはあったであろうが「果たせぬ夢」と、老後にそれなりの願いを託し、それを頑張るエネルギーにしていたのでは。

「痴呆を遅らせ改善する」のに何が必要か、これからの大きな課題です。介護の出来る時間がほしい。何としても大阪勤務を、と会社に要請しているのですが。

神野 康坦



神野さんの通勤ルート